

作曲してみませんか！



難しいと思っている？

この世の中に音楽が嫌いという人はいるでしょうか？歌謡曲はくだらないと馬鹿にしている人も、クラシックなら聞くとか、ジャズは苦手だけどロックンロールは好きとか、ジャンルは選ぶにしても、音楽が嫌いという人は少ないでしょう。

地球外生命体を探査する目的で打ち上げられたボイジャーにはゴールデンレコードという地球の音を録音したものが載せられ、その中に様々な音楽が収録されています。音楽は人類の音として認められるほど、人間の存在にとって根源的なものなのです。その音楽を自分も作りたいと思ったことのある人は多いと思います。小説が好きな人は自分で書いてみたりもします。どこの学校でも文芸クラブのようなものはありますし、カルチャースクールで文章の書き方を教えるところもあります。

ところが音楽に関しては、ことは簡単ではありません。作曲をしようと思えば知るべきことはたくさんあります。

作曲をしたい人が多いことを示すように、巷には作曲指南の本が少なからず存在します。どの本も簡単に作曲ができるかのように扉に書いてありますが、私が読んだ限りでは読むだけでも結構大変です。なぜなら、それらの本に音楽のことが書かれていても、音や曲を聞かずに自分でイメージすることが難しいからです。私が読んだ本「作曲少女～平凡な私が14日間で曲を作れるようになった話～ Kindle版」[仰木日向(著)、まつだひかり(イラスト)]も、お薦めな本ではあるのですが、事情は同じでした。正直言って、「まずは耳コピしろ」という話以外のことは内容を忘れてしまいました。それは、私が読んでも作曲できるようにはならなかったからです。音楽には決まり事があり、一応作曲してそれを五線紙に書き留めようと思えば勉強しなければなりません。でも、皆さん忘れていることがあります。私たちは全員、中学校までに作曲に必要な音楽理論は学校で習っているのです。まさかと思うかもしれませんが本当です。簡単な曲を作曲するだけなら、中学校までの知識で十分なのです。私はこの文で、作曲の仕方をお教えしようと思います。上で述べたように私は一度挫折しました。挫折を経験した身として、それでも、と思う方に方法がありますよと言おうとしているのです。心構えとしてはハードルを思いっきり下げることです。誰でも最初から立派な曲が書けるわけではありません。しかし、何か一曲仕上げてみれば事情は違ってきます。それに加え、テクノロジーの力を借りることでハードルをもっと下げることができます。といってもパソコンが1台あればいいだけです。また、この文では楽器が弾けることを前提にしていません。楽器が全然できなくても作曲する方法はあります。そのことを知るだけでも、読む価値はあると思いませんか？

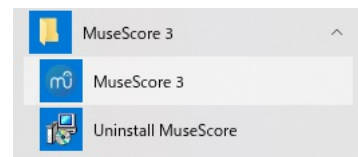
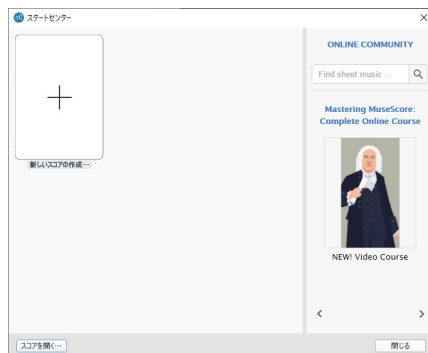
実践編

パソコンに MuseScore をインストールしましょう。



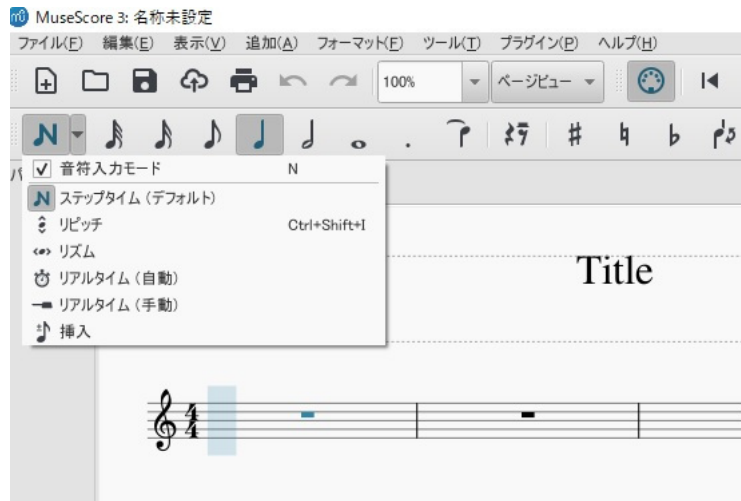
<https://musescore.org/ja/download>
上のアドレスをブラウザに入力し、ダウンロードをクリックします。
64bit か 32bit かは自分のパソコンにあわせて選んでください。
ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを完了します。

MuseScore は、パソコン版は無料なのですが、携帯で使うには料金がかかってしまいます。この文ではより手軽に楽しんでいただくために、パソコン版を紹介します。



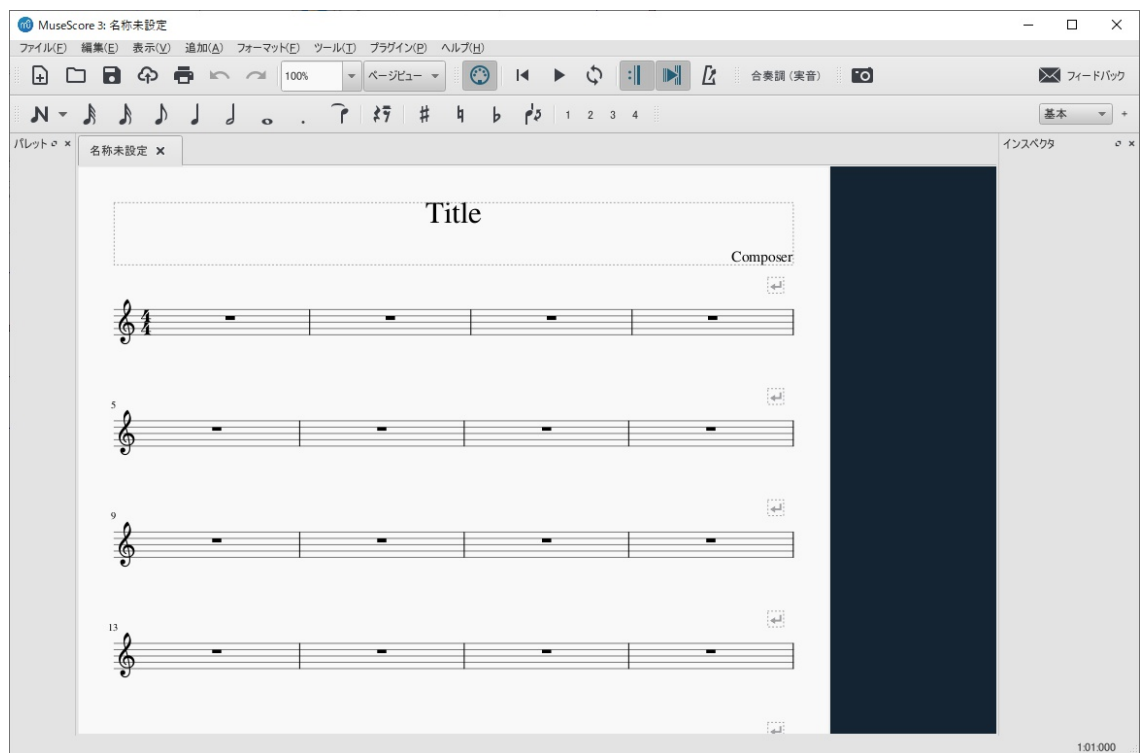
MuseScore のアイコン

起動画面
「閉じる」をクリックして楽譜入力に入ります。

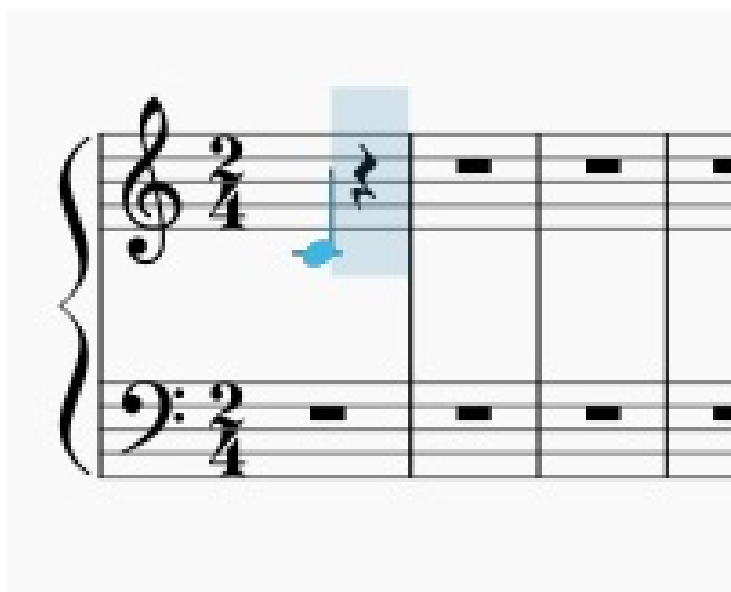


入力開始

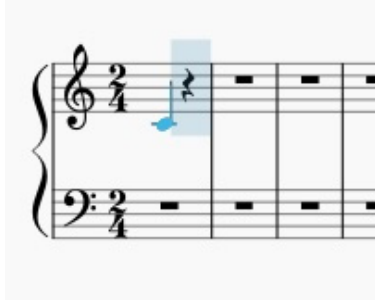
音符入力モードをチェックして入力を始めます。



音符の入力画面



マウスを五線譜の上に置き、
4分音符でドの音を入力しま
す。
左クリックで確定します。



音符の確定後、キーボードで上下の矢印キーを押すと音が出て、音程も上下します。やってみてください。

MuseScore を使えば、作曲のハードルが格段に下がります。それは、自分のイメージした曲を少しずつ楽譜に置き換えて微調整できるからです。音符を繰り返し演奏して、イメージに近づけていくことで、作曲と採譜が同時にできます。

ここまで読んで興味を持たれた方は、ネットで MuseScore を検索して賢い使い方を覚えてみてください。

以下で、私のやり方を少し紹介しましょう。

まず、適当に作詞します。ここでもハードルを下げて、いい歌詞にしようとは思わないほうがいいです。

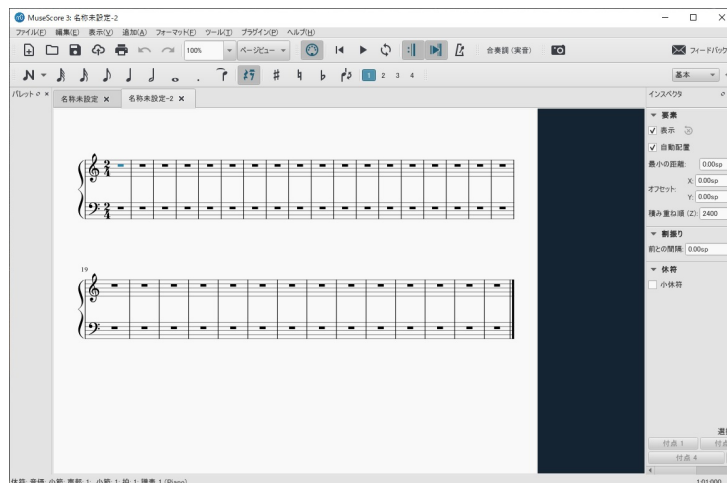
例えば、ほんの一部ですが、

波、波、波

のようにです。

これに曲をつけてみましょう。。
「なみ」という 2 音の言葉が続きますので、4 分の 2 拍子に設定します。

MuseScore の画面ではこんな感じになります。



MuseScore では休符をあとの編集（削除など）するのは難しいようなので、それをしなくてすむように、1 小節を基本にして途中で休符が入らないように音符を置いていくと楽です。そうするために、最初にリズムを決めます。例の場合は 4 分の 2 拍子ですから、1 小節に 4 分音符が 2 個分、8 分音符なら 4 個入るということです。

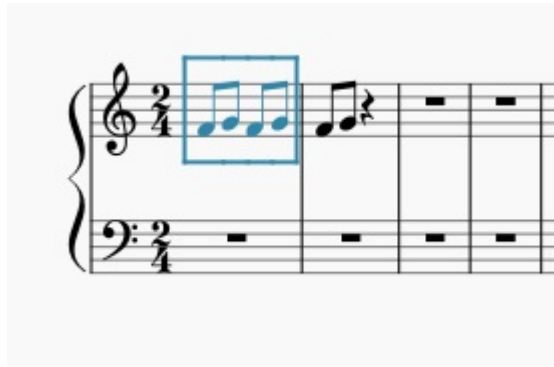
波、波、波では 8 分音符を 6 使ってみましょう。リズムはタタタタタタです。音程はドです。8 分音符 6 個の後、4 分休符 1 個で 2 小節出来上がりです。



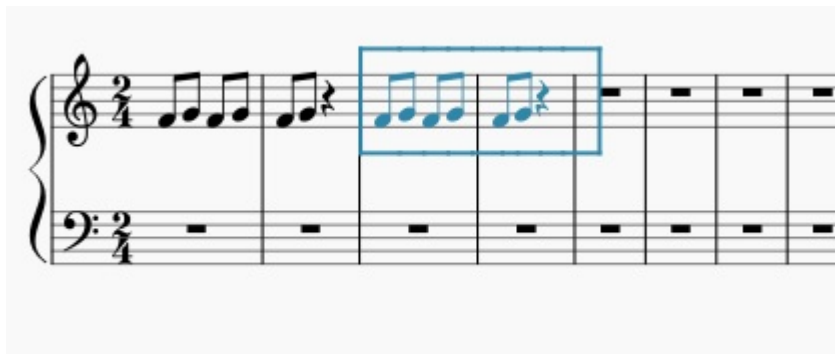
これができたら、鼻歌を歌いながらキーボードの矢印キーの上下で各音符の高さを調節していきます。音を聞きながらできますので前に説明したように、楽器が弾けなくても大丈夫です。



こんな風にしてみました。ファソファソファソですね。
これだけだと中途半端なので、もう 2 小節付け加えます。
もう一度、波、波、波を繰り返します。この時、音符のコ
ピペが便利です。

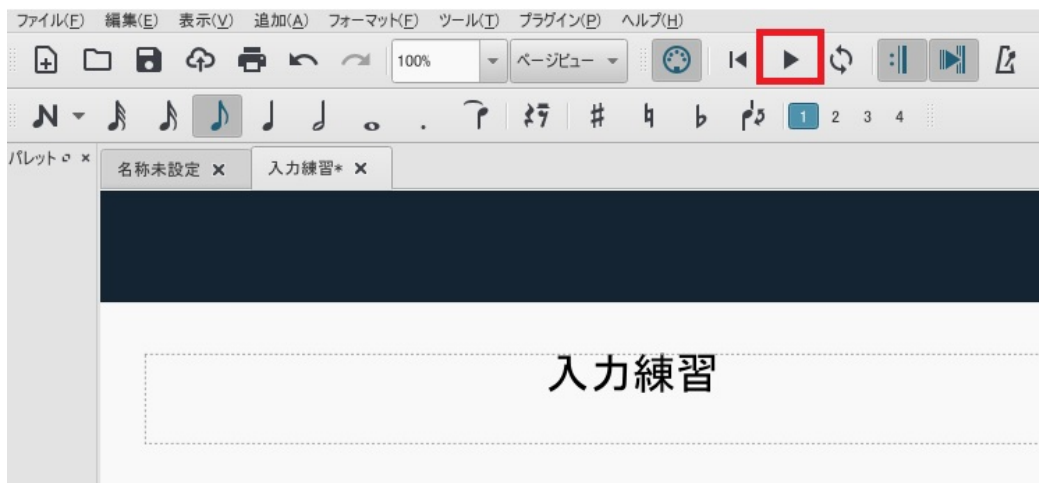


先頭の4分休符が選択された状態で、第1小節の”2”の右側をクリックすると上の図のように音符がまとめて選択状態になります。次にキーボードのShiftを押しながら右矢印を3回押して選択範囲を広げ、ニューの”編集”、”コピー”、3小節目をクリックしてメニュー”編集”、”貼り付け”としてコピーを完了します。

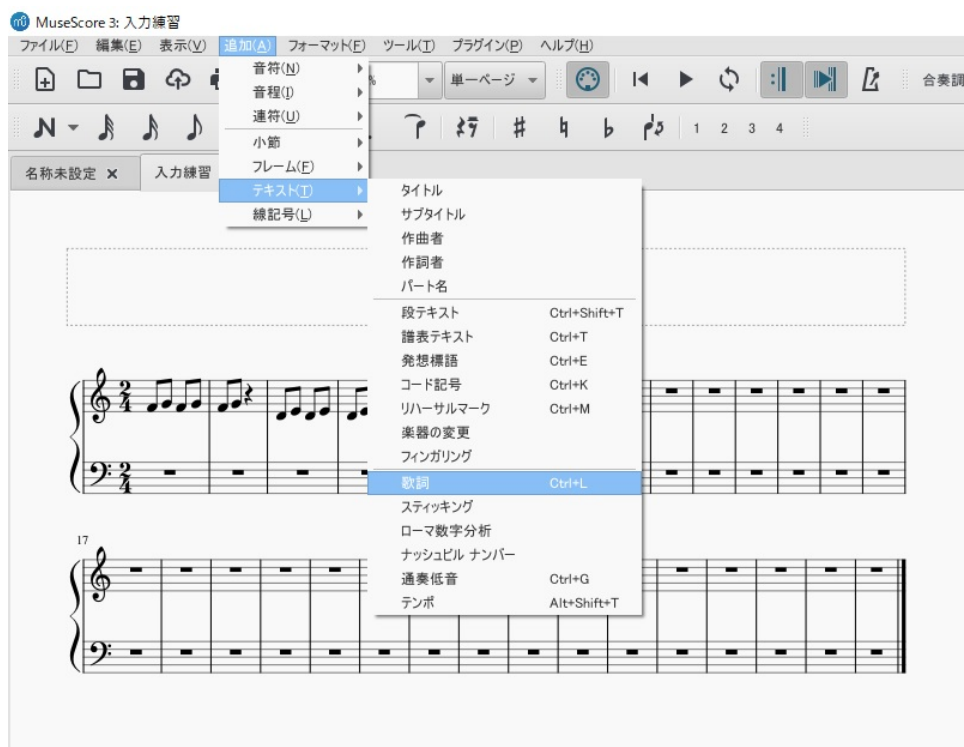


少し音程を調節して、





演奏は上の赤枠で囲ったプレイボタンをクリックします。



上の操作で歌詞を追加できるようになります。



楽譜の強み

楽譜を読み書きすることは難しいという先入観があるせいか、楽譜の代わりになる表記法を目にします。ギターならTAB譜ですが、少し作曲ができるようになって、もっといい曲を作ろうとしたとき、楽譜に親しんでいることは強みになります。西洋音楽の場合、その音楽理論は楽譜でよく理解できるようになっており、和音、コード進行などは楽譜で表現されてこそわかりやすいものとなっています。